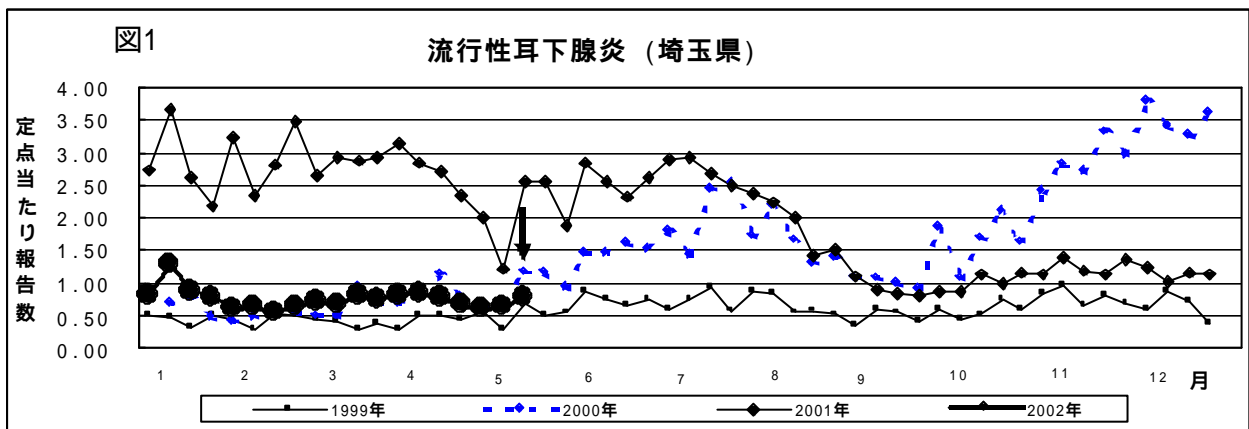


流行性耳下腺炎について

1 現在までの流行状況

流行性耳下腺炎は、ムンプスウイルスによる感染症で、国内では3～4年毎に流行がみられます。県内の流行性耳下腺炎の患者報告数は、1998年～2000年4月までは大きな増加は認められませんでした。2000年3月から増加し始め、2001年8月まで高い傾向が持続し、この期間当疾患が県内で大きく流行していました。2000年9月以降、患者報告数は減少し、現在までのところ、再び大きな増加は認められていません。(図1)



2 ムンプスウイルス検出状況

ムンプスウイルスは耳下腺炎の他、無菌性髄膜炎や脳炎、すい臓炎などの合併症、またごく稀に難聴を発症します。衛生研究所では、県内の定点で採取していただいた、これらの患者検体（咽頭拭い液や髄液）のウイルス検査（培養細胞によるウイルス分離やPCRによるウイルス核酸の検出）を行なっています。表1はムンプスウイルス検出状況です。2000～2001年は、同時期の流行を反映し、例年より検体数、検出数とも増加しました。耳下腺炎、髄膜炎はムンプスウイルスの他、数種のウイルスが原因として知られており、病原ウイルスの検出が感染症発生動向調査の貴重なデータになります。

表1 衛生研究所におけるムンプスウイルス検出状況

	耳下腺炎		無菌性髄膜炎(ムンプス感染疑い)	
	検査検体数	検出数	検査検体数	検出数
2000年1～12月	22	16	10	2
2001年1～12月	14	5	12	2
2002年1～3月	1	1		
計	37	22	22	4